

平成 20 年

11 月

No. 541



広 報

いいいたて

<http://www.vill.iitate.fukushima.jp>



村民と協働の村づくりを ～菅野村長 4 期目がスタート～

10 月 27 日、菅野典雄村長が初登庁し、菅野村政の 4 期目がスタートしました。

この日、多くの住民に送られながら登庁した菅野村長は、職員代表から花束を受け取った後、出迎えた職員にあいさつをしながら役場入り。

この後の訓示で、菅野村長は「村民と協働の村づくりを進めていきたい」と抱負を述べました。



菅野村政

4期目のスタート



就任のごあいさつ

飯館村長

菅野 典雄

このたび、再度村政の舵^{かじ}を担うことになりました。全ての村民の方への感謝の念と、その責任の重さに身も心も、緊張感でいっぱいであります。

これからの4年間、村の方向性を誤^{あやま}らず、村民の産業振興や福祉向上に、心を新たに努めてまいりますので、ご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

飯館村は「自立」ということで、村づくりをしてきた中で、いろいろな厳しい局面は、多々ありましたが、多くの方のそれぞれの立場でのご理解やご尽力によって、「元氣な村」「頑張っている村」の評価を落とすことなく進めて来れました。

これは、とりも直さず、皆さんの「自分の村を良くしたい」との大所高所からの強い思い入れが、全ての原動力であります。感謝に絶えません。これからはさらに村民の方が、「飯館村民で本当に良かった」との思いを一人でも多くの方に抱いていただける様、務めていくつもりです。

その一つとして、「小さな村だからこそできること」に最大限知恵を絞りたいと思っています。マイナス要因をプラスに変える必要があるからです。

小さな村だからこそできること

二つ目として、村の総合力、つまり「飯館ブランド」を高めるため努力します。村が進めている産業にしろ、福祉、教育、医療、道路づくりに至るまで、国や県との関係で事業が決まってくることも数多くありますし販売戦略にしろ、「あの飯館村なら大丈夫」とのことが事業推進には大きな役割を果たすからです。

そして三つ目、今まで以上に「村民と共に歩む」という環境をつくりたいと考えています。いわゆる「村民との協働」であります。それを進める第一歩は、私たち行政を担う者が、いかに村民の立場に立てるか、村民の思いを自分のものに出来るかにかかっていると言つて良いでしょう。もう一度、全職員が原点に返つて、「自分の今の仕事は村民のため」との思いを忘れぬよう努めてまいります。

以上、三つの他に、村にはもう一つの宝があります。それを誇つていけない手はありません。

それは、今日本中に「自分さえ良ければ、他人はどうなつても良い」との風潮がまん延しています。本来、日本人の他国に誇る国民性は、相手を思いやり、気づかいあう心掛けであつたはずです。

その「あつたはずのもの」がまだ私たちの村にはたくさん見かけることができます。この、村民の「相手を思いやる心」が村の顔でもあり、武器にもなりえるということ、子どもたちにも、しっかりと伝えていきながら、次世代が「誇りと愛着をもって村を背負っていく村」に近づけたいとの思いを強くしているところです。

皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げ、就任のご挨拶いたします。